

■□要旨■□

1. これから10年の社会変化—なくなる仕事・なくならない仕事—

10年前から今日までの発展を見ると、ここから10年は世界の半分がインターネットを介して構築され人生の半分をそこで過ごすことになる。つまり、インターネット(AI)のできる仕事は残らない。

なくならない仕事__人間が本来やるべき仕事

それは現在と同じ職業であっても中身が違ってくることもある。例えば、電車の車掌や運転手はいずれAI化される。しかし、「責任をとる人」という意味での人間の存在は必要なため、その意義における職業になるかもしれない。

2. 人間が本来やるべき仕事をするために、情報編集力を向上させる

生きる力を3点の逆三角形で表現。底の1点は「基礎人間力:育ち」、左の点は「情報処理力:知識、技のう」、右の1点は「情報編集力:思考力、判断力、表現力」でありこれが重要。

「情報編集力とは何か」を体感するためのワークを実施。白が定義されている物を短時間でどんどん上げる。これは情報処理力。その後、その中で黒に代えることで価値が上がるものを考える。これが情報編集力。

3. 自分の希少価値を上げるよう。そしてその方法。

希少性の目安は1,000,000人に1人の存在。これがオリンピック選手のレベル。それを最初から目指さず、100人に1人の価値のかけ合わせで良い。1つ目が軸足でホップを意味し、2つ目がステップ、3つ目のジャンプが遠いほどその人の希少性は高くなる。

4. プレゼン、会議の極意

(1)名刺に頼らない自己紹介

自分のキャッチフレーズで相手を掴む。藤原さんはそれが「顔(さだまさしに似ている)」であり、それを使うことで本物のさだまさしを見る度に藤原さんを想起させるきっかけにもなる。

他に、苗字が使える人もあるし、自分をキャッチフレーズで覚えてもらい名刺は最後に出そう。

(2)共通点をさぐりながらプレゼンする

人間は自分ない情報を拒絶する。だからヒヤリングで相手の情報を知り、それを混ぜながら説明する→説明の素材は相手の情報なので、相手はまるで自分が発案した考えだと思い共感する

(3)プレスのポイントは2点

- ・個々に思いつきの継続ではダメ。参加者の脳をリンクさせ、その延長上で思考する
- ・最初の2周はバカなことを言う。これで予想以上に頭は柔らかくなり、発案率が上がる



■□感想■□「異なる価値観を持つ他者との理解」という私の大きな課題にアプローチできる具体的なお話を数々いただくことができました。理解していく脳のメカニズム、共感の力、情報編集力の重要性、全てが他者との関係性の中で役立ちます。そして、最後にお話くださった子供との関わりについての部分はとても腑に落ちました。教育の選択が多く迷う中で大切なのは親子の会話ですね。実行中です。